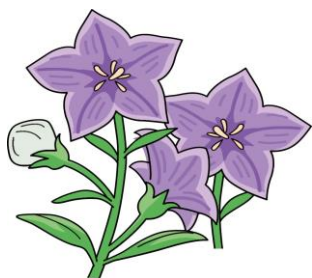


甲佐町オレンジ通信

令和 7 年 9 月 甲佐町地域包括支援センター

第 4 号(通巻第 104 号)



様々な災害に備え、今何ができるのか改めて考えましょう。

このたびの豪雨により、残念ながら尊い命を失われた皆様には心から哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

今回の道路冠水の被害なども、通常の豪雨レベルでは考えにくく、改めてハザードマップや地域防災訓練などの重要性を感じる事態となりました。

災害を受ける当事者となれば、いつもとは異なる状況で想定外のことが生じてきます。

例えば、避難しようと考えた時すでに道路の冠水で、避難所まではいけないなども生じてきます。

以前近隣では、豪雨の後、認知症高齢者の方が、土砂災害に巻き込まれて亡くなったことがあります。人吉球磨地方の豪雨災害では、高齢者施設利用者や在宅

の要介護高齢者が、河川の氾濫でお亡くなりになりました。

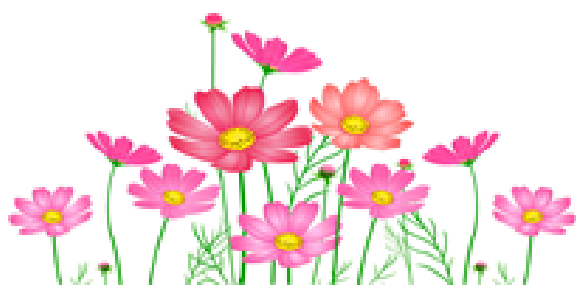
そのように考えると、災害対策は同じ地域を生きるもの同士の共通の重要な課題でもあります。

訓練や対策は、医療機関や介護サービス、区長さんや民生児童委員さん、地域福祉推進員さん、行政と連携し、地域の高齢者のサポート体制を考えていかなければなりません。

特に大きな河川と小さな支流がぶつかるところは、バックウォーター現象といって、支流に流れる水が逆流してきたり、流木などで、ダムのようになって氾濫する場合もあります。早めに避難を考えるべきですが、避難ルートや避難場所の確認も重要です。

特に移動に時間がかかったり介護が必要な方々は普段から支援してもらえる場所や人を確保しておかれることをお勧めします。

町地域包括支援センターでは、6月から月に1回、全10回にわたって認知症に関する情報「甲佐町オレンジ通信」を発行します。



お問い合わせ先
甲佐町地域包括支援センター
(甲佐町役場 福祉課)
TEL 234-1114